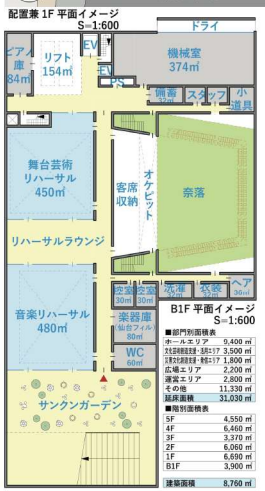
舞台は仙台

仲の瀬橋からみたグラデーションがある街並み

配置兼 1F 平面イメージ
S=1:600



B1F 平面イメージ
S=1:600

■部門別面積表

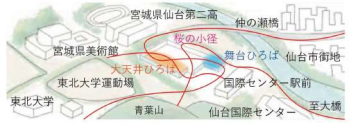
ホールエリア	9,400㎡
大ホール(客席数:1,500)	3,500㎡
小ホール(客席数:357)	1,800㎡
広場エリア	2,200㎡
展示エリア	2,800㎡
その他	11,330㎡
延床面積	31,030㎡

■階別面積表

5F	4,550㎡
4F	6,460㎡
3F	3,370㎡
2F	6,060㎡
1F	6,690㎡
B1F	3,900㎡
建築面積	8,760㎡

01 アクセシビリティを活かした提案 ふらっと寄れる仙台、青葉山の憩いの場

仙台はコンパクトでウォーカブルな街を目指しており、対象敷地も仲の瀬橋と大橋によって市街地とつながり、アクセシビリティが高い場所です。また 2015 年に開通した東西線の国際センター駅や、るーぷる仙台が利便性を向上させ、宮城県美術館や仙台国際センター、緑彩館等を周遊しながら、ふらっと訪れられる敷地です。そうしたアクセシビリティを活かし、内外の広場を市民に開放した散歩道でありトレッキングロードのような大階段のある市民の憩いの場をつくります。



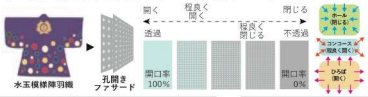
02 歴史的・地域的特徴を活かした、他施設と連携する提案 たくさん程良くごちゃまぜを開く

音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の複合用途だけではなく、「人・文化・まちを育む創造の広場」として、「奏でる、つくる、読む、食べる、話す、考える、遊ぶ、育てる」等たくさんのアクティビティが程よくごちゃまぜになり、その様子が市民に開かれたインクルーシブな施設とします。また、近隣の緑彩館（ビジターセンター、歴史展示）や国際センター（コンベンションホール）と連携し、互いに補完します。

駅前ひろばから大天井ひろばとサンクンガーデンをみる

■伊達の水玉模様陣羽織をモチーフとした「開く閉じる」をコントロールするダブルスキンファサード

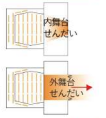
仙台藩、伊達政宗ゆかりのこの場所に、歴代藩主用水玉模様陣羽織をモチーフとした構成のダブルスキンファサードを用いることで、閉じる開く、程良く閉じる開く等を調整し、採光もコントロールします。



2F 平面イメージ
S=1:600

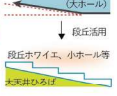
03 地形的特徴を活かした提案 仙台市街地と同じ舞台に立つ

対象敷地は青葉山エリアにあり、広瀬川によって市街地エリアと隔てられて河岸段丘を形成しているものの、仙台市街地とほぼ同じレベルにあることが重要と考えます。そこで、1FL 及びGLを仙台市街地と同等（レベル）と捉え、仙台市民のための仙台とつながる床をつくります。また大ホールの舞台レベルも 1FL、GL と同等とし、仙台に開ける構成とすることで、仙台という舞台を構成します。エリアは隔てられつつも、常に仙台を 1 つに感じる市民の誇れる場所となります。



04 地形的特徴を活かした提案 河岸段丘を建築に取り込む

広瀬川の地形的特徴の 1 つである河岸段丘を建築に取り込んだ計画とします。具体的には大ホールの客席勾配を河岸段丘と見立て、そのままホワイエ（西側）まで連続させ段丘ホワイエを構成します。また小ホールや市民ホール、階段ひろば等、河岸段丘の構成を一貫することで、ダイナミックに様々なアクティビティが展開され、山側に開いた大天井ひろばが生まれます。



05 地形的特徴を活かした提案 周辺環境に馴染む「見る見られる」関係の利用

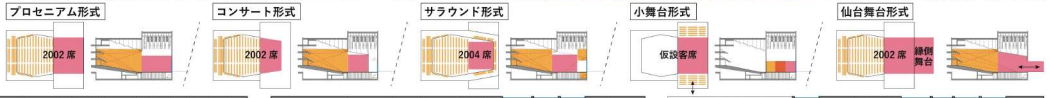
対象敷地は、仲の瀬橋と大橋から、また仙台市街地からも広域的に「見られる」対象であり、市民の誇りとして青葉山に存在感を持って佇むことが重要と考えます。また仙台市を一望する観点からも、東側は高く建てることが肝要です。一方で、山側である道路側に対しては、高く建てすぎると圧迫感が出るため、なるべく低く建物を抑えることが求められます。

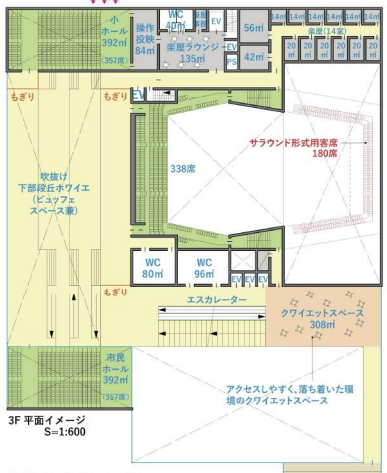
青葉山へは、階段ひろばから段丘ホワイエへつながる

仙台市用地を見渡した場所の音楽ホール（大ホール）公演風景

音楽ホール（大ホール）に面する、開じ段丘構成の市民大ホール

■様々な用途で容易に形式を変換でき、常に 2000 席以上を確保する音楽ホール（大ホール）　プロも市民も演奏しやすく、聴きやすく、使いやすく、見やすい大ホールとします。また様々な形式変化に対応します。



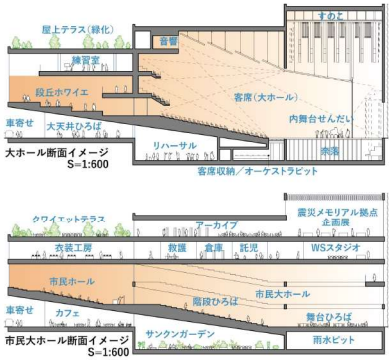


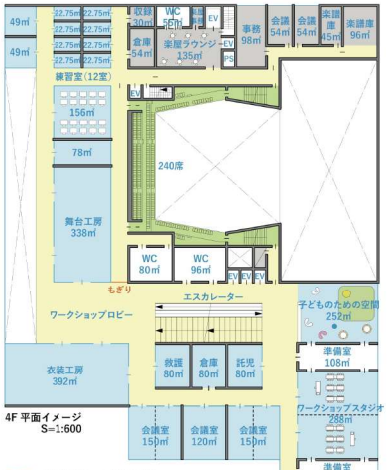
3F 平面イメージ
S=1:600

06 地形的特徴を活かした提案 御裏林の植生活用した杜のひろば

伊達政宗が仙台城を築城後、人の出入りが制限され、都市部では珍しく手つかずの自然が残った御裏林（東北大学植物園）の植生を活かし、この場所ならではのモミの木をはじめとする外構計画とします。

東北大学植物園

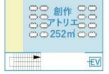


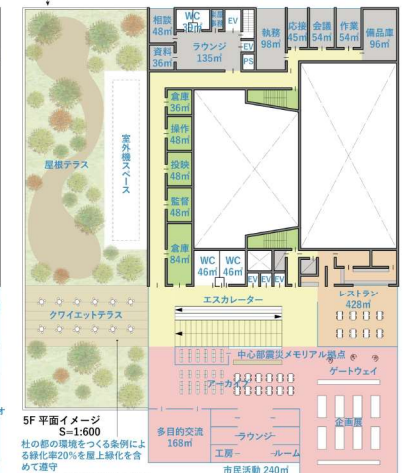


4F 平面イメージ
S=1:600

07 複合施設としての根幹的提案 分かりやすい複合施設の断面構成

階毎に分かりやすい施設構成とすることで、音楽ホールを中心として様々な複合的賑わいを見せながら、誰もが使いやすい施設とします。





杜の都の環境をつくる条例による緑化率20%を屋上緑化を含めて遵守

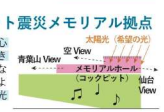
5F 平面イメージ
S=1:600

11 重要な室内空間の提案 動線の中のクワイエットスペース

クワイエットスペースを、誰でも容易にアクセスできる大階段の動線の中に配置します（2 階、3 階）。舞台ひろばと隣接し、賑わいを感じながらも壁で仕切られ、落ち着いて仙台の街並みを眺められる空間としています。また 5 階青葉山側にクワイエットテラスを設けています。

08 複合施設としての根幹的提案 2 つの大ホールと小ホール

中心部震災メモリアル拠点は、震災と仙台を心象に紐づけるため、仙台市の街並みを俯瞰できる最上階に配置します。また他の空間とは異なり、さんさんと光が差し込むコックピットのような、震災の記憶の継承が、未来への希望の光を表す空間とします。

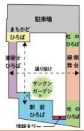


12 重要な室内空間の提案 仙台を俯瞰するコックピット震災メモリアル拠点

レジデントオーケストラとしての仙台フィルや様々な大規模イベントで使われる荘厳かつ静謐な大ホールに対し、市民が気軽に何気なく訪れられる交流ロビーを市民大ホールと位置付け、大ホールの客席勾配と同様の大階段や階段広場を設けます。また小ホールも同様に、レジリエンスの意味も込めた 2 つ目を用意し、静謐と賑わいを両面から受け止めます。

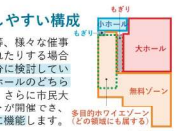
09 複合施設としての根幹的提案 異なる 2 つの交流ひろばとコンコース

青葉山側の大天井ひろばと、広瀬川側の舞台ひろばの、それぞれ性格の異なる大きなひろばを 1 階に設け、それらを東西に貫通するコンコースでつなぎます。大天井ひろばは段丘形状の傾斜天井を利用した落ち着きのあるひろばで、舞台ひろばは階段ひろばに面して吹き抜けのある、まさに大ホールの舞台と同様の賑わいを受け止めるひろばです。



10 複合施設としての根幹的提案 回遊性のある多様な外部ひろば

建物のまわりをぐるっと回遊できる多様な外部ひろばを設けます。国際センター駅を降りると催し物の情報が分かる情報タワーが迎え、駅前ひろばと杜のひろばへ分かれます。駅前ひろばは最も広く、様々な外部イベントを許容し、サンクンガーデンにつながります。車寄せひろばや美術館側のまちかどひろばにはマルシェ等が、東側の緑側舞台は大ホールとつながる演目が上演されたり、市民のための舞台にもなります。



13 建築の機能的な提案 様々なシーンでも区画しやすい構成

大ホールは仙台フィルの公演の他、学会等、様々な催事が想定され、また小ホールと同時に使われたりする場合等、様々な想定の「もぎり」ラインを十分に検討しています。また段丘ホワイエが大ホールと小ホールのどちらにも属するホワイエとして利用できます。さらに市民大ホールや市民小ホールとも同時にイベントが開催でき、臨時の代替空間としてもレジリエンス的に機能します。

14 建築の機能的な提案 明快な主要動線と裏動線

建物の中心に位置する大階段とエスカレータを主要動線として、賑わいが結みつきます。そして建物全体にバランス良く内部階段や EV を配置しています。さらに管理スペースや楽屋口、搬入動線をコンパクトに北側にまとめることで、動線の簡略化・効率化を図りながら市民の活動の場を広げます。

舞台広場の賑わいに触れる、落ち着いた雰囲気のクワイエットスペース

希望の光に満ち溢れる、さんさんと明るい開放的な震災メモリアル拠点